

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 26 日現在

機関番号：34411

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23720095

研究課題名(和文)日本のコミュニティダンスにおける評価基準の開発

研究課題名(英文)Evaluation Criteria for Developing Japanese Community Dance

研究代表者

白井 麻子 (SHIRAI, ASAKO)

大阪体育大学・体育学部・准教授

研究者番号：30551741

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円、(間接経費) 990,000円

研究成果の概要(和文)：健康、教育、福祉、地域社会等と関わりをもち、文化的な活動として、日本各地で実施されるコミュニティダンス事業の参加者意識を質的、量的アプローチからデータ化し、評価基準の作成を行った。コミュニティダンス事業が参加者に及ぼす影響について、質問紙調査を実施し、舞踊を含めた異文化に触れる体験、個々の参加者自身の変化、地域や他者とのつながりという観点項目が抽出できた。それを踏まえ、事業を実施し、検証した結果、これらの調査から得られた観点項目は、参加者が事業の参加体験を項目毎に得点化することで、コミュニティダンスの事業評価へと応用できるものとして期待が持たれた。

研究成果の概要(英文)：Summary of the research results Community dance programs are frequent in local areas in Japan because these are regarded as essential community cultural activities for health, education, and welfare. Participant attitudes were data-ized using both qualitative and quantitative approaches, and we then evaluate. A questionnaire-based survey was conducted to identify the influence of the program on participants. The evaluation was based on cross-cultural experience, and local and intra-program exchanges. The results indicated that participants tend to rate the program based on their cross-cultural experience, and local and intra-program exchanges. Thus, it can be inferred that the conducted research was worthwhile.

研究分野：芸術学

科研費の分科・細目：芸術一般

キーワード：舞踊 芸術振興 ダンス コミュニティ

1. 研究開始当初の背景

(1) コミュニティダンスは、イギリスで生まれ、イギリスの文化社会のなかで発展してきた。コミュニティダンスの言葉の指す範囲は幅広く、一般的に参加者とアーティストが共に楽しみ、それぞれの創造性を表現し新しいものを発見しながら、他の文化や他の人々とつながりをもつような意図で実施されているダンスプログラムであり、年齢、性別、国籍、宗教、障害といった枠をこえて、ダンスのスタイルや、形式にこだわらないダンスである。

(2) 近年、コミュニティダンスが日本でも行われるようになり、公共ホールの音楽や現代ダンス活性化事業、文部科学省の芸術表現を通じたコミュニケーション教育の推進事業としても、コミュニティダンスを扱われはじめ、文化庁をはじめとする公共資金をもとに運営が行われている。しかしその知名度も低く、またそれらの研究も少ない現状である。ダンスプログラムの参加体験により、参加者の表情や動きが変化し、生きる力 QOL や、自己効力感を高める力を得たであろう心身の変化の様子を感じることは多くあった。しかしそのようなダンスへの参加体験が心身に与える影響について調査した研究も、またダンス事業そのものの評価についての研究についても皆無であり、客観的な社会的コンセンサスが得られにくい現状がある。

2. 研究の目的

本研究では、コミュニティダンスの参加者の意識を質的アプローチからデータ化し、健康、教育、福祉、地域社会での社会的位置づけを明確化し、その価値を広く普遍化するために、日本におけるコミュニティダンスの評価基準を開発することである。また公的資金を財源とする社会事業の一部であり、文部科学省の中学校ダンス必修化の課題を含め、ダンスが社会に果たす役割つまり、社会的コンセンサスを得るための方法を開発することにある。

3. 研究の方法

(1) 日本におけるコミュニティダンス事業の現状を観察し、また文献、先行研究、過去の報告書などの情報を収集する。

(2) コミュニティダンス・ワークショップおよび実践事業の参加者対象に質問紙調査を行い、評価基準案を作成する。

(3) コミュニティダンスの実践事業で、評価基準案を試験的運用し、その結果を基に評価基準を検討する。

(4) コミュニティダンスの実験を行い、評価基準案での評価を実施し、尺度の検討を行う。

4. 研究成果

(1) 日本におけるコミュニティダンスの現状

コミュニティを対象としたダンス・ワークショップや文化振興の場は、1990年代頃には実施されており、2005年には、公共ホール現代ダンス活性化事業、2010年には、文部科学省による芸術表現を通じたコミュニケーション教育の推進事業、公共ホール等活性化支援事業などの取り組みにより増加してきた。実践事業の調査対象は、静岡市で開催されたコミュニティダンス事業(2011,2013)、沖縄市の開催されたコミュニティダンス事業(2012,2013)で行い、参加者の特性、参加形態、施設、公演の有無、助成団体などの違いによって、ダンスそのものに、違いがあることやファシリテーター、コーディネーター、主催者の関わり方にも、事業毎に大きな違いがあることが分かった。

(2) コミュニティダンス事業が参加者に及ぼす影響

2011年実施の2つのコミュニティダンスの事例を対象に、参加体験が参加者に及ぼす影響と、コミュニティダンスのイメージについて調査を行った。

コミュニティダンス・ワークショップの参加体験とそのイメージに関する調査を大学生対象に行い、参加者に二次元気分尺度(TDMS)、自己評価に関する項目、SD法によるコミュニティダンスのイメージに関する項目の質問紙調査を行った。TDMSの結果から、WSの参加体験で活性度得点が上昇し、参加者の多くは、ポジティブな心理状態へと気分を高めることが出来た。つまりコミュニティダンスに参加することによって、心と身体の活性化をし、日常生活活動に適した心理状態へ高める効果があることが示唆された。しかしながら、少数ではあるが、変化がなかった、または低下した参加者がいた。自己評価得点に関しても、ネガティブな評価をする参加者が全体の約20%にみられた。

コミュニティダンス・イメージに関する調査については、因子分析および解釈を行い、3つの因子をそれぞれ、内容評価因子、気分評価因子、感情刺激因子と命名した。また、参加者の自己評価得点と、イメージに関する調査には、関連性がみられ、参加者は参加体験後の自己の気分の変化を振り返り、コミュニティダンスのイメージを形成しているという構造が明らかになった。

つまり、コミュニティダンス・ワークショップの参加体験による影響について、まず第1に参加者の心理状態をポジティブ傾向へ変化させることが出来る可能性は大いにあるが、個人差が比較的大きい。また、ワークショップは自主的な学びを進んで行う場であり、取り組み方によって、そのイメージに違いが生まれることが確認された。

静岡市で実施されたコミュニティダンス事業の参加体験とそのイメージに関する調査を参加者対象に行い、自由記述による感想とSD法によるコミュニティダンスのイ

メージに関する項目の質問紙調査を行った。

図1は参加者の意見・感想をKJ法でカテゴリ化し、その関係性を表した図である。結果として、コミュニティダンスは、参加者にとって、ダンス作品を作り・踊り・発表するという芸術活動の体験を十分に味わい、達成感を得られる活動であったことが示唆された。またその体験を通して、参加者個人は、互いに刺激を与え合い、楽しみ、喜びを感じる体験であったと考察された。

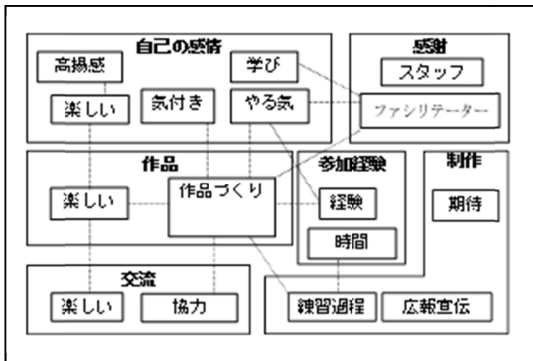


図1 コミュニティダンスの事業に関する参加者の意見・感想の関係図(KJ法による分析結果：意味合いの近いカテゴリは、点線で明記した)

まとめとして、コミュニティダンスの参加者に影響を与える要因は、ダンス作品、アーティスト、参加者、観客、制作者の複合的なものが関係していることが分かった。また、参加者に、芸術振興や、地域交流、自己を高める力や、他者関係を意識すること、表現する喜びを味わうことなどの影響を及ぼしている可能性が明らかになった。また、ワークショップなど自主的に参加するものと、アウトリーチのように、受け身的な参加形態では、参加者にとって及ぼす影響には、差がみられることが示唆された。

(3) 多様なコミュニティダンスの評価

参加対象者を調査の中心とし、2013年度にA,B市で開催されたコミュニティダンスの事業において、評価基準案を組み込んだアンケート調査を実施した。その結果、コミュニティダンスの目的でもある、他者との出会い、新しいことへの挑戦、創造的な活動に関しては、A,B市ともに高い評価であった。一方、地域交流、地域活性化に関する観点の項目には差が見られた。これらの理由として、主催団体、参加者の属性、実施会場の公共性の違いが影響していることが分かった。

つまり、参加者の参加動機や目的により、事業評価は変化するといえる。すなわち、多様なコミュニティダンスに対応した、評価基準が必要であることが示唆された。また、この事例研究を通して、コミュニティダンスの参加目的は、表1に示した12のカテゴリに分類できた。

表1 地域で実施されるコミュニティダンスの参加目的

- 1 いろいろな人と出会う
- 2 新しいことに挑戦できる
- 3 地域の行事に参加できる
- 4 ダンスを踊ることが出来る
- 5 発表会に参加する
- 6 楽しむ
- 7 たくさんの人と集える
- 8 からだをうごかせる
- 9 創造的な活動である
- 10 友人と一緒に参加できる
- 11 視野が広がる
- 12 その他

(4) 評価基準の検討

ワークショップに参加し、舞台上で発表経験するコミュニティダンスの事業を実験的に実施し、ダンス体験が実験参加者に与える影響を手掛かりに、コミュニティダンスの事業評価について検討をした。調査は、実験協力者4名を対象に、参加目的として抽出された12の選択肢(表1)から、参加者がダンス経験を通して強く感じた項目を選択する設問の他、参加動機、参加前後の気分、内省報告などの項目に回答を求めた。その結果、“創造的な活動”と、“視野の広がる”という項目得点が高く、内省報告では、“楽しい・興奮する”という感情と、“自身への気づき”が多く語られた。これにより、今回の実験として実施したコミュニティダンスの事業は、自己理解や気づきなどの個のQOLを高める役割が強いが、一方で地域活性化や、地域の文化振興事業としては、貢献できていない事業であったという評価となった。

すなわち、開催場所、地域、対象者に関する事前の調査を十分にした上で、コミュニティダンス事業の目的を制定し、それに対する評価を実行する必要があるといえる。

(5) 国内外における位置づけと今後の展望

本研究課題を通して、多様化するコミュニティダンスへの応用には、検討の余地が残っていると考える。研究の成果として、研究協力者とのつながりにより、2014年に、イギリスのコミュニティダンスの先駆者である指導者を招き、コミュニティダンスのファシリテーター養成講座を実施することが決定した。また、コミュニティダンスの多様性は、同分野の研究者も抱える問題であり、それぞれの分野に特化した研究課題を進め、共有する方向へ動き始めた。本研究課題では、コミュニティダンスの社会的位置づけを明確化し、その価値を広く普遍化する段階には達成したとはいえないが、この成果を広く公表し、普遍化出来るよう研究を進めていきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

1. 白井麻子・山口晏奈(2014) 舞踊作品の表現手法に関する研究 「蛻る、蛻る、もぬけ・・・」の作品分析を手掛かりとして (大阪体育大学紀要, 45 pp.165-176 <査読有>)
2. 白井麻子(2013) コミュニティダンス事業が参加者に及ぼす影響に関する研究: 静岡コミュニティダンスプロジェクトの事例を通して(舞踊教育学研究 第15号, pp.25-34 <査読有>)
3. 白井麻子(2012) コミュニティダンスワークショップの参加体験とイメージに関する研究 大学生を対象として (大阪体育大学紀要, 43 pp.53-65 <査読有>)
4. 白井麻子・伊藤美智子(2011)「多様な動き」を素材とした視覚教材が表現運動の学習活動に与える効果: 小学校6年生を対象に心に響く動きを探る実践的試み (舞踊教育学研究 第13号, pp.12-20 <査読有>)

[学会発表](計3件)

1. 原田純子・白井麻子(2013) ダンス発表会の教育的意義についての一考察 (第65回舞踊学会大会 2013年12月7日 愛知芸術センター)
2. 白井麻子(2012) コミュニティダンスが与える効果に関する研究: 静岡コミュニティダンスプロジェクトの事例を通して (第64回舞踊学会大会 2012年12月1日 東京大学)
3. 白井麻子(2011) コミュニティダンスワークショップの体験が参加者に与える効果: 評価尺度作成にむけての予備的研究 (第63回舞踊学会大会 2011年12月3,4日 彩の国さいたま芸術劇場)

[その他]

ホームページ等

<http://communitydanceresearch.web.fc2.com/>

アウトリーチ活動

1. 大阪体育大学主催スポーツキャンプ
コミュニティダンス・ワークショップ
2012年3月3日 大阪体育大学第2体育館
2014年3月1日 大阪体育大学第2体育館
ダンス講師を勤める
2. 熊取町主催元気広場キッズダンスクラス
2010年4月より隔週土曜日 10:00-12:00
継続事業
ダンスクラス監修

6. 研究組織

(1)研究代表者

白井 麻子 (ASAKO SHIRAI)
大阪体育大学・体育学部・准教授
研究者番号: 30551741

(2)研究分担者 無() 研究者番号:

(3)連携研究者 無() 研究者番号: